

7月28日(木)～29日(金)

「第18回中国・四国・九州地区理数科高等学校課題研究発表大会」

本年度の理数科課題研究発表大会は、徳島県徳島市あわぎんホールで行われました。鳥取県から沖縄県までの各県の代表校により口頭発表16テーマ、ポスターセッション61テーマ(物理分野16, 化学分野15, 生物分野19, 地学分野6, 数学分野5)により2日間にわたり発表大会が行われました。

益田高校からは「ドンコの色素胞の反応性」と題して、3年5組の齋藤正暉くん、齋藤元春くん、佐々木聡くん、壽田祐大くん、田中怜さんがポスターセッションの部門で発表しました。2日間での発表時間の合計は約4時間です。1日目は審査も含めた、参加校の生徒や先生方による相互聴講でした。常に3名～8名の聴講者に囲まれ、発表時間内に来場者が途絶えることはありませんでした。発表では、補助資料としてタブレット使った発表技術は見事でした。2日間の発表会を通じて、他県の生徒さんや引率の先生、大学の先生方も来ておられ、質問を通じて研究を進めるうえでの着眼点や検証方法など貴重なアドバイスいただき、この上ない勉強になりました。結果は優良賞をいただきました。

参加者の齋藤くんは、「レベルの高い発表では、集めたデータの多さや綿密な分析が研究を進める上での説得力に結びつくことを改めて感じました。」という感想を持っていました。

また、今年度は相互評価シートが用いられ、聴講者からのコメントもたくさんいただきました。本校の発表に寄せられたシートの内容を少し紹介します。

「今まで聞いた発表の中で一番分かりやすかったです。身近な生物から疑問を見つけて、仮説を立て、実験するのがすばらしいことだと思いました。質問にも丁寧に答えてくれてありがとうございました。」

「1つ1つの問題に仮説を立てて証明していくことで、より確実な結果になっていると感じました。身のまわりの自然から、研究テーマを持ち出してみるのもいいなと感じました。来年の参考にさせていただきます。」

「都会では行うことができない田舎ならではの工夫がほどこされてよかった。身近な物に対して疑問をもてるのはすごいと思った。」

「最初にドンコの説明をしてくれてありがたかったです。実験内容がとてもおもしろそうだなと思いました。ポスターには図や写真がたくさん使われ、文字の形や大きさにも工夫があり、見やすかったです。」

来年は、8月9日～10日の日程で岡山大学で行われます。2年生のみなさん、県大会を勝ち抜いて岡山大学をめざしましょう。

